

つくば市指定管理者実績評価表

所管課	こども部こども育成課
評価対象期間	令和3年(2021年)4月1日から令和4年(2022年)3月31日まで

1 施設の概要

施設概要	名称	つくば市立大曽根児童館			
	所在地	つくば市大曽根447番地3			
	関係条例等	児童福祉法、つくば市立児童館及びつくば市立放課後児童室条例、つくば市立児童館及びつくば市立放課後児童室条例施行規則、つくば市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例			
	設置目的	つくば市の児童の適切な遊び及び生活の場を与え、その健康を増進することとともに情緒を豊かにし、児童の健全な育成を図る。児童と地域の高齢者との世代交流、地域交流等の子育て支援の拠点施設を目指す。			
指定管理者	名称	特定非営利活動法人 茨城YMCA			
	所在地	つくば市東新井24番地7			
指定管理業務の内容		1 施設の運営に関して行わなければならない業務(指定管理業務) ① 児童の遊びの指導を行う事業 ② 母親クラブ、子供会その他の児童の健全な育成に関する活動を行う地域組織を育成し、支援する事業 ③ 放課後児童健全育成事業(利用料の徴収等含む) ④ 児童と高齢者等との多世代交流事業 ⑤ 父母その他の保護者の子育てを支援する事業 ⑥ 地域交流事業 ⑦ 児童館の施設利用許可等に関する業務 ⑧ 児童館施設及び物品の維持管理に関する業務 2 施設の維持管理に関して行わなければならない業務(指定管理業務) ① 建築物保守管理業務 ② 設備管理業務 ③ 清掃業務 ④ 保安警備業務			
指定期間		平成30年(2018年)4月1日から令和5年(2023年)3月31日まで(5年間)			
総合評価(年度評価)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
	B	B	A		

管理運営実績データ

施設名	つくば市立大曾根児童館		
	目標・計画等	実績	原因・指示・勧告等
利用者数 稼働率等	児童と高齢者との多世代交流や地域の子育て支援拠点として魅力ある児童館運営を目指す。 令和3年度の運営については、新型コロナウイルス感染症の収束が不透明なことから来館者数の増を目指すのではなく感染対策を徹底した安全、安心な居場所づくりを目指す。	開館日数 254日 のべ来館者数 (R2比) 21,178人 (-1735人) 【内訳】 幼児 507人 (-116人) 小学生 19,238人 (-1699人) 中学生 4人 (+4人) 大人 1,429人 (+76人) 地域団体の児童館・筑穂館利用回数 154回 (+48回) ()…前年度比 ※来館者に児童クラブ利用者も含む。	児童館は特に休館することなく前年度と同様の開館日数であったが、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言等や、利用自粛によって前年度と比較し来館者数は減となった。 感染対策を徹底する安全対策が利用者に評価され、乳幼児親子の新たな利用が生まれるなど、安全・安心な施設運営を行っている。
自主事業 (講座・セミナー等)	多種多様なイベント・クラブの実施により多世代交流や地域交流を図る。	実施回数 243回 (+52回) 参加者数 8,539人 (+287人) ()…前年度比 自主事業の実施状況の詳細については実績報告書添付資料を参照	茨城YMCAでは、今年度の自主事業として21の事業を用意し、年間を通じて開催した。 緊急事態宣言等により一部中止があったものの、新型コロナウイルス感染対策を徹底しながら前年度を上回る自主事業を実施している。 次年度も引き続き多種多様な自主事業を展開していただきたい。
アンケートの実施状況 (利用者の満足度、苦情等)	年2回利用者アンケートを実施する(自由記述有)。利用者のニーズや不満点を聴取し、サービス向上に役立てる。	施設利用者 回答数92件 管理は行き届いているか 満足：92.4% 普通：6.5% 不満：1.1% 利用しやすいか 満足：92.4% 普通：6.5% 不満：1.1% 職員の対応 満足：91.3% 普通：8.7% 不満：0%	施設利用者のアンケートでは、平均して約90%の方から満足を得られているため、引き続きサービスの維持・向上に努めていくよう伝えた。
収支状況	令和3年度予算額 <収入> 33,240,000円 【内訳】 市委託料 28,000,000円 児童クラブ利用料 4,460,000円 自主事業 544,000円 カラオケ使用料・その他 236,000円 <支出> 33,240,000円 【内訳】 人件費 16,200,000円 管理運営費等 17,400,000円	令和3年度決算額 <収入> 32,441,950円 【内訳】 市委託料 28,000,000円 児童クラブ利用料 4,101,600円 自主事業 181,450円 カラオケ使用料・その他 124,800円 本部繰入金 30,100円 前年度児童クラブ利用料 4,000円 <支出> 31,837,314円 【内訳】 人件費 11,881,547円 管理運営費等 19,557,767円	支出の人件費が大幅減となっているが、一部の職員が茨城YMCAの本部から派遣されて大曾根児童館職員として従事しており、その者の人件費が管理運営費等の「本部経費」で計上されているためである(別紙、収支報告書参照)。

2 評価結果

評 価 項 目		
(1) 管理状況		評 点
項目	視点	
①適切な管理の履行	協定や事業計画に沿った管理が適切に履行されているか。(清掃、警備、保守点検、環境配慮等)	3
②適切な職員配置	職員配置は適切か。(有資格者等の配置)	2
③職員研修・人材育成	職員教育、育成は適切に行われたか。(就業規則、接遇等研修、法令、情報管理等)	3
④職員の労働環境	労働条件や労働環境は適正か。	2
⑤個人情報の取り扱い	個人情報保護及び情報公開は適切に行われたか。	2
⑥安全対策・事故防止対策	来館者の安全対策、事故防止策は適切であったか。	2
⑦危機管理体制	防犯及び防災、その他事故等緊急時の体制、対応は十分であったか。	2
【評価の理由】 ①遊具、清掃点検は毎月欠かすことなく報告している。保守点検や園庭の剪定等も適切に実施している。また、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止についても、通常の消毒等の対策に加え、掲示物や職員の声かけを徹底し、対策している。 ③新型コロナウイルス感染症の影響により研修の中止が多くあった中、子供たちを指導するための研修を積極的に実施し、職員のスキルアップに努めている。研修で得た新型コロナウイルス感染症対策を活用し、児童への感染対策を徹底しながら自主事業を例年以上に実施した施設を評価する。 毎年実施している茨城県の社会福祉施設(児童館)一般検査において必要な有資格者の配置基準を充たしていた。また放課後児童クラブ運営についても、児童の安全・安心な見守りのための指導員の適正配置ができていた。 市が貸与するパソコン(外部へのデータ転送不可)で放課後児童クラブ児童クラブ員等の個人情報を適切に管理している。 館内の備品の適切な収納と、危険箇所の緩衝材の貼り付けがなされている。 消防点検・ガス点検等の実施あり。避難訓練もしている。また、児童の怪我があった場合に市への報告が迅速かつ的確であり、かつ、保険説明などの事後処理も適切であった。		
(2) 運営状況		評 点
項目	視点	
①平等利用の確保	平等・公平な利用に配慮されていたか。	2
②指定事業の実施	仕様書に指定された事業が計画通り実施されたか。	3
③自主事業の実施	事業者の創意工夫によるサービスの向上や利用促進策が予定通り図られたか。	3
④利用者意見の反映	利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組がなされているか。	3
⑤意見・苦情等への対応	利用者からの苦情やトラブルに対し、適切に対応したか。	2
⑥利用者満足度	利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られているか。	3
⑦利用実績	利用者数・利用料金収入を増加する又は確保するための取組がなされているか。(導入前との比較、導入後の推移等)	3
⑧地域との関わり	市民のニーズを反映した取組がなされたか。地域の住民や団体との連携が図られているか。地元住民や地元業者の活用等、地域活性化に貢献しているか。	3

【評価の理由】

- ②指定事業については、職員が研修で得た感染症対策の知見を活用し消毒液の十分な配置、児童を消毒に誘導する掲示、児童が使用するおもちゃ等の適切な消毒を行うなど徹底した感染対策を行いながら児童館事業、児童クラブ事業及び施設管理を実施したことを高く評価したい。
- ③新型コロナウイルス感染症感染拡大の中であっても安易に事業開催を取りやめることなく、児童の手指消毒・マスク着用の徹底、児童の間隔維持などの基本的な感染対策を児童に周知徹底しつつ、児童が楽しめるイベントを積極的に企画・実施し、前年度以上の実績となったことを評価したい。
- ④乳幼児の保護者からおもちゃ等の衛生面の懸念の声があった際に、これに即座に対応し、乳幼児や児童が触れるおもちゃ等の消毒、掃除、整頓を徹底した結果、清潔感に関する好感がアンケート調査で伺えた。昨今の情勢において衛生面に即座に対応し、利用者の安全・安心を確保し、かつ、調査にて確認できた点を評価したい。
- ⑥施設利用者アンケートにおいて、3項目とも90%を超えたことを高く評価したい。
- ⑦新型コロナウイルス感染症の影響により大曽根小学校の学校閉鎖が生じ、児童クラブ利用が大きく減少しているものの、前述のような消毒等の安全対策、施設の安心感確保を徹底したことにより、児童館・筑穂館の市民利用が前年度より大きく増加している。利用者目線及び感染症対策を徹底した結果であることから、利用実績を高める取り組みとして評価したい。
- ⑧令和3年度も地域で下校時の児童を見守る「くすのき隊」に参加したり、大穂地区子育て応援ネットワーク団体「くすのき会」の事務局となったりするなど、地域の協働に継続的かつ積極的に取り組む姿勢は指定事業以上の働きがあるとして高く評価したい。

2 評価結果

評 価 項 目		
(3) 収支状況	項目	視点
	①管理運営経費の節減	管理経費を縮減するため、効果的・効率的な執行がなされたか。
	②事業収支	収支計画は、計画どおり達成されたか。
	【評価の理由】	

【総合評価】

合計評点	42	評価ランク	A
【総評】 ※評価を踏まえ、翌年度の指導方針や、指定管理者制度の導入目的が達成されているかを記載する。			
運営4年目を迎え、地域の交流拠点としての認知度も高まる中、令和3年度も新型コロナウイルス感染症への対応の1年であったといえる。特に9月と2月の大曽根小学校の臨時休校があった際には、児童館を開館し、児童クラブ事業も1日保育の対応となったが、想定外の対応についても、適切かつ迅速に対応していただいたことを高く評価したい。 また、多世代交流施設を含む児童館の団体利用についても、令和2年度に感染症の予防対策を目的として自ら作成したガイドラインに基づき、安全、安心な運営のために高い意識をもって業務を遂行し、結果、令和3年度は団体利用者数が前年度比で増加していることを高く評価したい。 5年目となる令和4年度の運営については、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、大曽根児童館の特色である多世代交流の事業を展開し、地域交流の中核を担う施設として活躍していただきたい。			

※添付書類

事業報告書(月別施設別利用者数一覧、月別施設別稼働率一覧、自主事業実績、利用者満足度調査(アンケート調査等)結果、苦情一覧、収支報告書等)、モニタリングチェックシート、労働環境確認シート

【評価の基準】

4: 目標や計画を大幅に上回るすばらしい成果があがったもの
3: 目標や計画を上回る成果があったもの
2: 目標や計画どおりの成果があったもの
1: 工夫や改善は認められるが、結果的に目標や計画を下回っており、さらなる努力が必要なものの
0: 目標や計画を下回っており、(所管部署の指導にもかかわらず、)工夫、改善が足りないもの

※ ただし、採点に当たっては、目標設定の度合いを考慮して行うことができる。

【総合評価の基準】

S: 総合的に評価した結果、特に優れていると認められる (0点の項目が無く、合計点が49点以上)
A: 総合的に評価した結果、優れていると認められる (0点の項目が無く、合計点が39～48点)
B: 総合的に評価した結果、適正に運営されていると認められる (0点の項目が無く、合計点が30～38点)
C: 総合的に評価した結果、さらなる努力が必要であると認められる (合計点が18～29点、ただし、合計点が29点以上であっても0点の項目がある場合)
D: 総合的に評価した結果、改善すべき点があると認められる (合計点が17点以下)